



『私は先ばい』



東京都
修武館
小学4年 安藤有沙

「剣道をやりたい」と思い始めたのは、二年生の夏でした。「どうしてもやりたい。」と母にお願いしましたが、すぐにはさせてもらえませんでした。

母との約束がありました。

「雨の日でも、風の日でも、一人で道場に行くんやで。」

「必ず行きます。」

「ちょっとやっただけで、すぐにあきらめたらアカンで。」

「大人になっても続けるつもりです。」

「うん。これを守れるんやったら、剣道をやってもええよ。」

「絶対に守る。」

と、私は心に決めました。

そして、半年後の平成二十七年三月一日に入門し、剣道を始めました。

稽古を始めてから、今までに習っていた水泳、体操、ピアノなどの習い事とはちがう、何かを感じました。それは、週四回稽古をしているのに

「つかれたな。今日は行きたくないな。」

と、思うことがなく、逆に

「よし！今日もがんばろう。」

としか思わなかったことです。

去年の四月の特別稽古の時、館長先生と稽古をしていました。自分の思い通りになかなか打てませんでした。とてもくやしくて涙がこぼれてしまいました。そのあと、母が道場に見に来たので涙をこらえたのですが、なぜか悲しくなって泣いてしまいました。

この思いがきっかけになりました。次の日の日本武道館の試合で勝つことができ、優秀賞をいただきました。

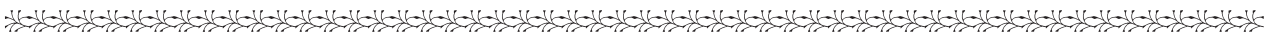
もうすぐ夏休みという時に、学校の校庭で遊んでいたら、右手の親指をねん挫してしまいました。二週間も剣道ができなくて、とてもショックでした。でも、道場には休まずに通い、見取り稽古をしていました。みんなが一生懸命にがんばっている様子を見ていたら、私も一緒に稽古がしたくて、うずうずしていました。

やっと稽古ができるようになりました。先生方や先輩方に思い切り打ち込んでいきました。先輩の

「面を取れ。」

の号令で面を外した時、とても気持ちが良かったです。

試合の前には、先生方や先輩方のアドバイスを思い出します。



「一、迷わないで。すぐに打たないと打たれるよ。」

「二、有効打突の条件を守って。」

「三、そこだ！という所が一本決まる瞬間だよ。」

「四、竹刀のふりが固いよ。手の内をやさしく握って、早く振り下ろすこと。」

「五、心負けするな。」

という五つの言葉を思い出しながら、試合に挑んでいます。

秋になり、一年生の妹が入門しました。負けず嫌いな妹なので、すぐに私に追いつきそうです。私は追い越されないように頑張ります。いつか姉妹で試合をするのが楽しみです。もちろん、絶対に妹には負けたくありません。

道場の少年一部には幼稚園に通っている子や、小学一年、二年、三年生の後輩がいます。私は、いつの間にか先輩になっています。今までに私が先生方や先輩方に教わったように、小さな後輩に教えてあげたいです。そして、強くなってほしいと思います。

私も先輩として後輩に負けないように、恥ずかしくないように、強くなれるように努力します。道場に通えることを感謝し、これからも剣道の稽古を続けます。